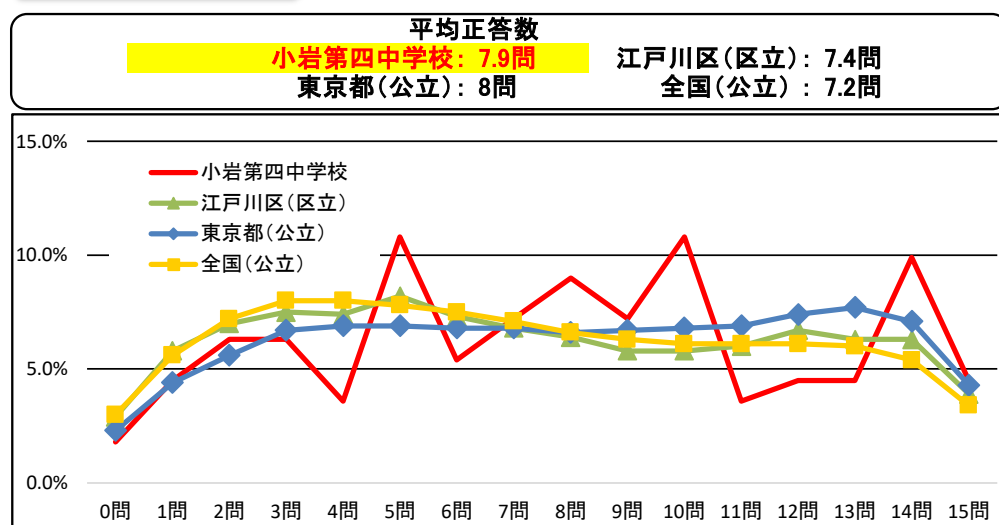


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【数学】小岩第四中学校

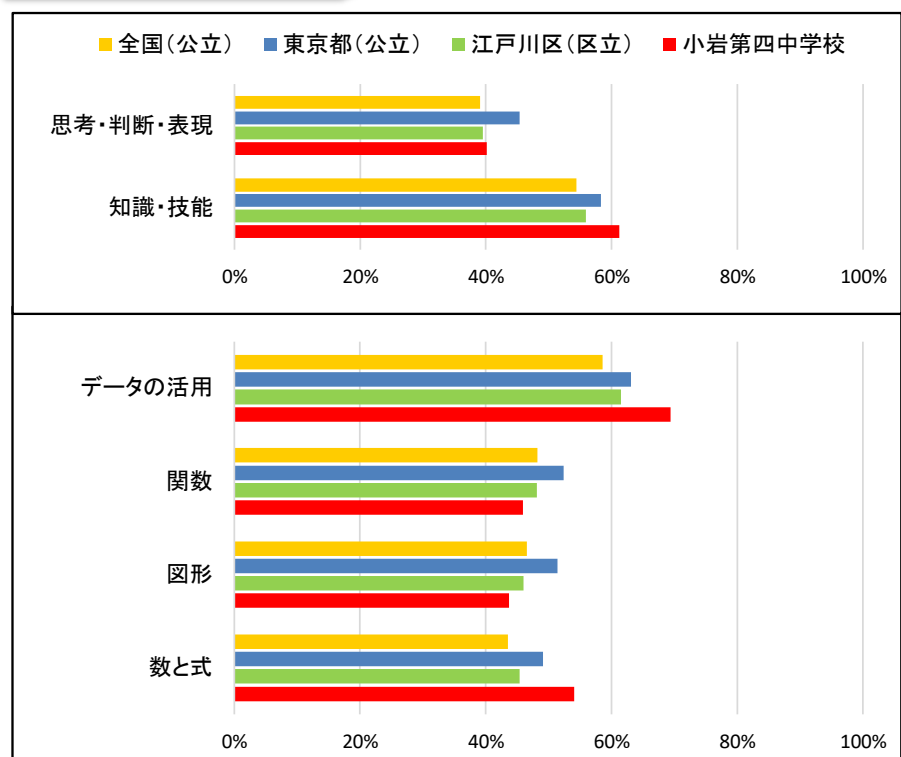
正 答 数 分 布



【平均正答率の差】

小岩第四中学校	53%
江戸川区(区立)	49%
東京都(公立)	53%
全国(公立)	48.3%
都との差(ポイント)	0.0

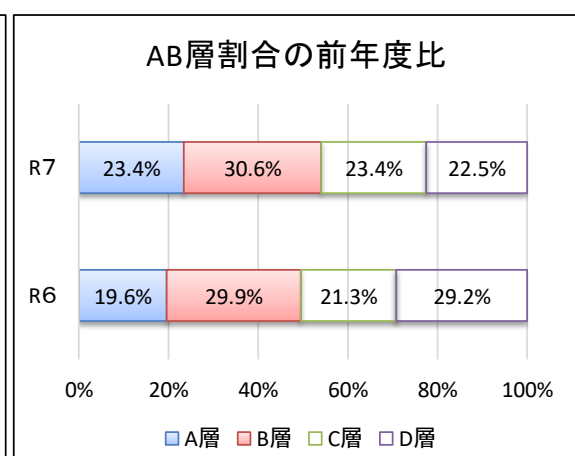
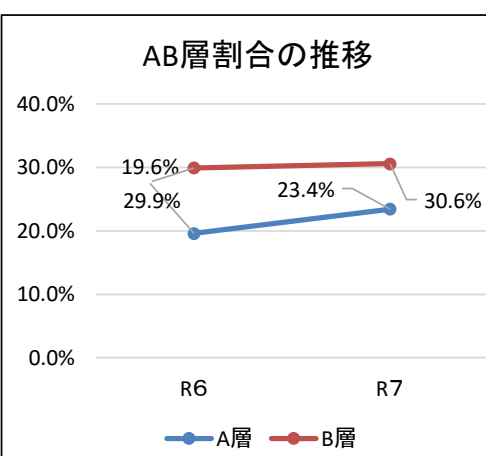
「領域別」の結果



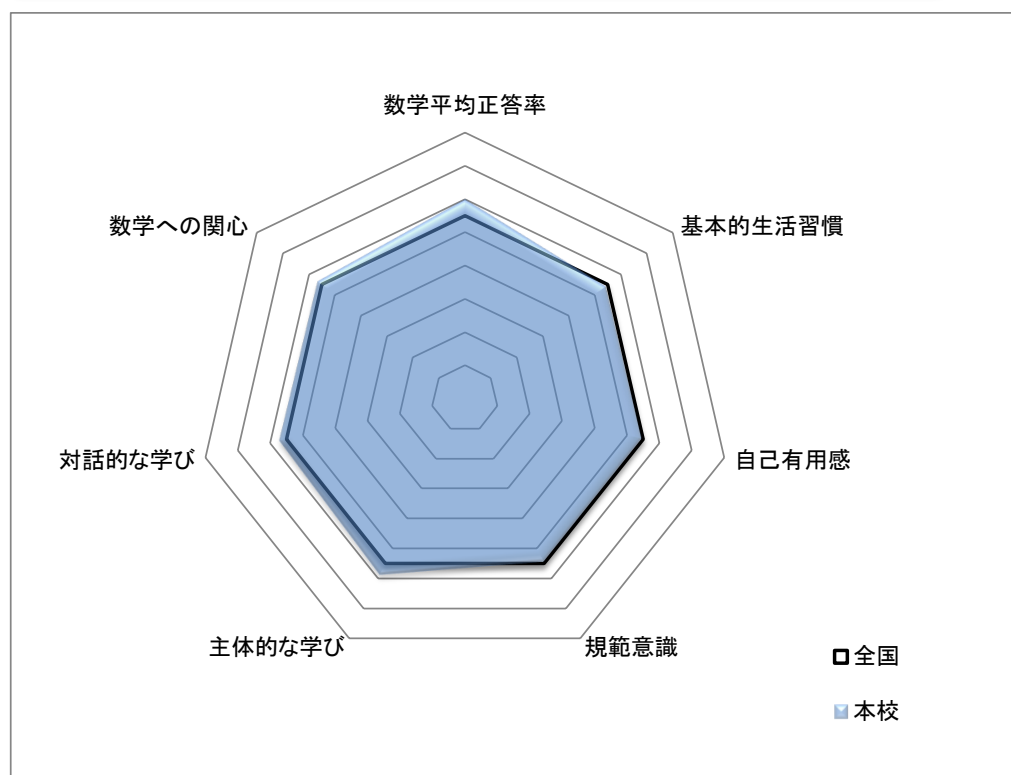
四 分 位 に お け る 割 合 (都 全 体 の 四 分 位 に よ る)

数 学	上位 ← → 下位			
	A層 12～15問	B層 8～11問	C層 4～7問	D層 0～3問
小岩第四中学校	23.4%	30.6%	23.4%	22.5%
江戸川区(区立)	23.2%	24.0%	29.6%	23.2%
東京都(公立)	26.5%	27.0%	27.5%	19.0%
全国(公立)	20.9%	25.1%	30.2%	23.8%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。



各 領 域 に お け る 、 全 国 平 均 正 答 率 及 び 、 全 国 の 肯 定 的 回 答 合 計 値 を 基 準 と し た 場 合 の 、 本 校 の 様 子 。



《チャートの特徴》

ほぼ全国平均と似たチャートになっている。その中で、「数学平均正答率」と「主体的な学び」が全国平均を上回ったということは、本校の取り組みの成果が表れていると言える。今後は、「対話的な学び」をさらに多く取り入れることにより「数学への関心」を高めていきたい。

《家庭・地域への働きかけ》

定期考査後の振り返りシートや、各学期の学習や生活の自己評価シートに書かれた内容を、学期末に行われる三者面談において保護者と共有し、個々に適した目標を設定するなど、生徒の学習への取り組みを学校でも家庭でも支援していく体制を整えている。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について
AB層を足すと54%であり、江戸川区や全国と比べると上回っている。また、前年度と比較しても、A層・B層ともに増加している。

《学校の取組》

・教員の指導力向上

本校では、2クラスを習熟度に応じて3つのグループに分ける少人数授業を展開している。そのため、必ず週に1時間は教科部会を行い、進捗の確認をはじめ、理解の深まる指導法や教材について研究を重ねることにより、指導力の向上に努めている。

・基礎学力の保障

プリントや問題集、ミライシードなどのデジタル教材等を活用し、十分な問題演習量を確保する。特に本校の課題である図形領域、関数領域は、苦手とする生徒が非常に多く、問題演習が不足しやすい傾向にあるので、問題演習の時間を確保し、十分な問題演習をさせ、苦手意識を減らせるようにする。

また、調査の結果から本校では自分の考えを文章で記入する問題に苦手意識をもっているように考えられる。そのため、説明の型を提示し、授業でも型に沿って話したり書いたりすることで、生徒が説明の型を身につけられるようにする。

・学習習慣の確立

単元の終わりや学年の終わりに復習の時間を設け、内容の定着につなげる。また、各単元ごとに、「教科書を中心とした学習内容の確認→問題集やプリントを用いた演習」という活動を行うことにより、学習内容を定着させるため、定期的に、ノートや問題集、プリントファイルの点検を行なっている。また、適宜小テストを行うことにより、学習内容の定着度を確認している。

・AB層の育成

上記のような取り組みにより、ある程度、基礎事項が身につけていることが確認できた際には、さらに、生徒の探求心や向上心を駆り立てるような課題を与え、応用力や筋道立てて物事を考える力の育成や伸長に努めている。